



秋冬ブロッコリー

やさいの里営農センター
営農指導員 椎名 康隆

農業 テクニカル ダイアリー

Agricultural-work technical diary



秋冬ニンジン

山武経済センター
営農指導員 小関 和彦



施肥
基肥と追肥を合わせた標準的な施肥量は、窒素成分量が早生品種が20キ、中早生品種が20キ、中晩生品種が25キと

目標とする収穫時期や圃場条件から品種を選定します。中早生品種では「おはよう」、中晩生品種では「ブランドー」が中心です。
育苗
大苗育苗では、苗床を表②を参考に準備し、高さ1センチ程度の平畝に十分な散水をし、地温を下げてから播種します。発芽適温は25℃で、地温を下げるため黒寒冷紗を二重掛けします。本葉2枚時で寒冷紗一重、本葉3枚で除去します。
定植機を使用するセルトレイ育苗は128穴トレイを10坪当たり30枚用意します。専用鎮圧機で穴を開け、播種します。播種後は灌水し、新聞紙を被覆して風通しのよい屋内で、トレイの下に風が通るようにすき間をあけて置きます。発芽したら新聞紙を除去します。育苗期間中にプレバソフロアブル5(1000倍液)をセルトレイ1枚当たり0.5リットルを灌注することで、コナガヤハスモンヨトウの防除に高い効果が得られます(表③参照)。

品種選定
目標とする収穫時期や圃場条件から品種を選定します。中早生品種では「おはよう」、中晩生品種では「ブランドー」が中心です。

圃場準備
圃場の選定に当たっては、品種特性や収穫時期を考慮して行ってください。

土壌消毒
ちばエゴ栽培に取り組み圃場では、緑肥の作付けや堆肥の投入が必要となります。そのため、土壌内のコガネムシ類の幼虫やネキリムシ・センチュウ等の害虫防除を十分に行うことも重要です。土壌消毒は、ネマトリンエース粒剤(10坪当たり20キ)、やDCC油剤(10坪当たり20リットル)で行います。

播種
土壌内には播種前に水分を確保してください。播種時期については、ニンジンの品質に大きく関わってきますので、品種に応じた播種を行い、特に早播きは、品質の低下を招きますので避けてください(表①参照)。

肥培管理
ニンジンを生育ステージに分けると、①発芽〜本葉3葉期前後の初期生育期(播種〜20日前後)、②本葉4〜7葉の根形成期(30日〜50日前後)、③本葉8枚以降の肥大充実期(70〜110日前後)の3段階に分けられます。

病害虫防除
近年、8月下旬〜9月にかけて天候が不安定な日が多く、病害の発生が見られています(写真②参照)。生育初期(本葉3〜5枚)の防除を行うことで、黒葉枯病等の発生の軽減を図りましょう。

土寄せ
土寄せは、生育初期(本葉5枚前後)の茎葉と根の境界部分を保護するのが重要です。この部分に障害が残ると、後に「エゴボ」の発生の原因(他に、乾燥・高温・強風)となります(写真①参照)。また、年明けに収穫を行う場合は、凍障害を防ぐため、12月上旬までに行います。

病害虫防除
初期の盛んな生育と揃った根形を確保するためには、播種前後の圃場の水分確保が必要です。水分は、発芽の良否や収量を大きく左右するため、水の確保(乾燥防止など)が重要なポイントとなります。
根形成期は、根部の肥大・充実に備えた重要な時期で、最も水分と肥料を必要とする時期でもあります。
肥大充実期においては、地上部(茎葉)の過繁茂による根の肥大不足、根色の色落ちを招かないよう、肥料養分が徐々に切れてくる生育が望まれます。

表② 苗床1a当たりの施肥量

肥料名	施肥量
完熟たい肥	200kg
キングシエル	10kg
苦土重焼燐	5kg
さんぶジシアン有機特806	5~10kg



写真⑥ ホウ素欠乏 写真④ ベと病による内部褐変 写真③ ベと病

また、生理障害として茎の部分がケロイド状に褐変する「ホウ素欠乏」は、土

します。基肥と追肥の割合は品種に応じて変更します(基肥は「おはよう」で70%、「ブランドー」で55%)。
カリ過剰の圃場では、組織内にべと病の発生が多くなるため、L型ジシアンなどを利用してください。また、このような圃場では、苦土の吸収が抑えられるため、苦土資材(硫マグ)の補給が必要となります。過去において生育状態が心配される圃場では、土壌診断を行うてください。

病害虫防除
近年、8月下旬〜9月にかけて天候が不安定な日が多く、病害の発生が見られています(写真②参照)。生育初期(本葉3〜5枚)の防除を行うことで、黒葉枯病等の発生の軽減を図りましょう。

土寄せ
土寄せは、生育初期(本葉5枚前後)の茎葉と根の境界部分を保護するのが重要です。この部分に障害が残ると、後に「エゴボ」の発生の原因(他に、乾燥・高温・強風)となります(写真①参照)。また、年明けに収穫を行う場合は、凍障害を防ぐため、12月上旬までに行います。

病害虫防除
近年、8月下旬〜9月にかけて天候が不安定な日が多く、病害の発生が見られています(写真②参照)。生育初期(本葉3〜5枚)の防除を行うことで、黒葉枯病等の発生の軽減を図りましょう。

土寄せ
土寄せは、生育初期(本葉5枚前後)の茎葉と根の境界部分を保護するのが重要です。この部分に障害が残ると、後に「エゴボ」の発生の原因(他に、乾燥・高温・強風)となります(写真①参照)。また、年明けに収穫を行う場合は、凍障害を防ぐため、12月上旬までに行います。

病害虫防除
近年、8月下旬〜9月にかけて天候が不安定な日が多く、病害の発生が見られています(写真②参照)。生育初期(本葉3〜5枚)の防除を行うことで、黒葉枯病等の発生の軽減を図りましょう。

土寄せ
土寄せは、生育初期(本葉5枚前後)の茎葉と根の境界部分を保護するのが重要です。この部分に障害が残ると、後に「エゴボ」の発生の原因(他に、乾燥・高温・強風)となります(写真①参照)。また、年明けに収穫を行う場合は、凍障害を防ぐため、12月上旬までに行います。

病害虫防除
近年、8月下旬〜9月にかけて天候が不安定な日が多く、病害の発生が見られています(写真②参照)。生育初期(本葉3〜5枚)の防除を行うことで、黒葉枯病等の発生の軽減を図りましょう。

4月の分析経過について

合計2点	
残留農薬分析点数	多成分一斉分析
	ミツバ1点
	春ブロッコリー1点

※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。

土壌診断点数 合計44点

表③ ブロッコリーに登録のある主な殺虫剤

対象害虫	農薬名	使用時期	希釈倍数	本剤の使用回数
ヨトウムシ	フェニックス顆粒水和剤	収穫前日まで	2000倍	2回
ハスモンヨトウ、アオムシ	プレバソフロアブル5	収穫前日まで	2000倍	3回

※上記の農薬は、散布での使用方法です。

表④ ブロッコリーのべと病に登録のある殺菌剤

農薬名	使用時期	希釈倍数	本剤の使用回数
ランマンフロアブル	収穫3日前まで	2000倍	3回以内
レーバフロアブル	収穫7日前まで	2000倍	2回以内
ダコニール1000	出蕾前ただし、収穫21日前まで	1000倍	2回以内

壤中にホウ素が十分あっても、乾燥が続くと発生しやすくなります(写真⑤)。

表① 秋冬ニンジン 部会指定品種一覧表

主な品種	播種時期	収穫適期	品種特性および栽培上の注意点
愛紅	7/25〜8/5	11月上旬〜12月下旬	極早生品種。遅播きしても年内出荷できる。黒葉枯病に弱いので、茎葉防除に重点をおく。
彩紅5寸	8/1〜8/10	12月上旬〜3月上旬	甘皮がはがれにくく、洗浄時間が長くなる。頭部が出やすいため、土寄せは十分に行う(凍障害を防ぐ)。
らいむ5寸	8/5〜8/10	12月上旬〜3月下旬	初期生育が劣ると、なで肩になりやすいので基肥中心の施肥設計を行う。
ベーター441	8/1〜8/10	12月上旬〜3月上旬	生育初期(発芽〜本葉初期)は、適正な水分を確保する。年明け出荷については、年内に十分な土寄せを行う。
れいめい	8/1〜8/10	12月上旬〜1月下旬	葉は、強く立性で黒葉枯病に強い。土寄せは行う(吸い込みは、並)。
ベーターリッチ	8/1〜8/10	1月上旬〜2月末	株間は、5cm程度の密植にする。(1本当たりの肥料吸収を抑え、裂根を減らす)



写真① ニンジンの肩障害(エゴボ)



写真② ニンジン黒葉枯病